

あいらの歴史と物語

発行責任者 始良歴史ボランティア協会

会長 竹之下 洲一

編集者 広報部 玉利 良一

連絡先：〒899-5421

鹿児島県始良市東餅田 498

始良市歴史民俗資料館

0995 (65) 1553

朝鮮の役での虎狩と「勲功賞の三味線」

橋本雅晴

霧島市牧園町宿窪田の福永家に、島津義弘公から贈られたという三味線が伝世しています。今回始良市歴史民俗資料館で開催の「島津義弘公没後四百年記念特別展」に、三味線と福永家系図を借用し展示させていただきました。

朝鮮出兵の際、文禄3年(1594)12月豊臣秀吉は自分の薬用として、諸将に虎の塩漬を注文しました。福永家系図の記述によると、文禄4年(1595)3月10日、義弘公と息子の忠恒が朝鮮の昌原で虎狩をした時、一頭の虎が襲い掛かりました。上野権右衛門は牙に引っ掛けられて即死、次いで帖佐六七は股を噛まれ命を落としました。その時福永助十郎は虎の尾を手取りにして松の下枝に引っ掛けて刀で刺し、長野助七郎が大太刀を抜いてとどめを刺したといわれています。その後助十郎の虎狩の刀は「虎切丸」と名付けられました。

助十郎は慶長3年(1598)11月18日朝鮮から帰国する際の海戦で、敵の弓矢が喉に当たって重傷を負いながらも、慶長5年(1600)関ヶ原合戦が始まる直前、義弘公を追って京都の伏見に駆け付けました。しかし7月30日の伏見城の戦いで討ち死にしました。義弘公はこれまでの助十郎の武功を賞して200石の感状を与えていましたが、この戦闘で感状は行方不明となりました。



『牧園町郷土誌』によると、この三味線について次のとおり書かれています。義弘公は「虎狩の褒美は望みにまかせん、何なりと申せ」と仰せられたが、助十郎は至って謙虚に「私事三味線を好み候」と真面目に言上したところ、望み通り御書付と共に三味線を贈られ、以後福永家の家宝として今に伝わっている。拝領の三味線は胴皮張りの立派なもので、「不吉の前兆があれば夜泣きする」と伝えられ、現在、棹・胴・皮それぞれ別個に保管されています。

なお、国の重要無形民俗文化財「市来の七夕踊り」（いちき串木野市）は、朝鮮出兵での義弘公の活躍をたたえたものですが、一番人気は帖佐六七や福永助十郎の名前を書いた幟旗が翻る中、「張り子の虎を退治する場面」で、その周囲は人垣で埋め尽くされます。

隈姫伝説の真相は…

宮内伸一

加治木の隈媛神社についての伝説はみなさんご存じだと思います。隈媛神社に掲げてある案内板に書いてある



るのでご覧になられた方も多いのではないのでしょうか。この案内板に書かれているのは『加治木古老物語』に書かれていることを基にまとめられたものです。簡単に説明すると「義弘に離縁された隈姫は悲しみのあまりお化粧地であった山田郷辺川の観音淵で 17 日間の祈りの後亡くなった」とするものです。しかしながら隈姫



伝説といわれるものは、この他にもあります。

隈姫の故郷である熊本県人吉市に伝わる説は、「隈姫は離別後帰国し、上村新左衛門長陸と再婚した」とされています。不幸な人生ながら、元和3年(1617)まで生きていたと記されています。これは、相良家文書『歴代私鑑』に書かれています。

この二つの説だけではありません。薩摩藩の『薩藩旧伝集』には、「飯野から須木郷(宮崎県)の深山に捨て、主従ともにあるき死した」と記されています。

さて、どれが本当なのでしょう。隈姫様は謎に包まれた女性です。厚い秘密のベールに覆われているので、いろいろな伝説が生まれてくるのでしょう。隈姫伝説の真相はなかなかわかりませんが、だからこそ、歴史の浪漫や楽しさを感じさせてくれる出来事だと思います。ぜひ、隈媛神社を再度訪れ、隈姫様とお話してみてください。真実がわかるかも……

人吉史跡巡り(研修視察)

迫村あけみ

5月30日、研修の一環として協会員全員で熊本県の人吉を訪ねました。

人吉は、島津義弘の夫人隈姫の出身地です。隈姫は人吉相良藩 18 代藩主相良義陽の腹違いの妹で、本名は亀徳と言います。義弘が義陽の裏切りにあつたため、亀徳は離縁され、それを悲しみ自害したという説が加治木に伝わっていますが、一説には、離婚後人吉に戻り相良氏一族の上村長陸と再婚し、二子をもうけたといわれています。しかし、長陸は謀反の疑いで誅殺され、残された亀徳は、時の権力者相良清兵衛に疎まれ非業の死を遂げたと伝えられています。

当日は、まず人吉城を訪れました。観光客で賑わう人吉城ではなく、その東側に広がる、相良氏が人吉に入ってきた頃の中世の山城です。今は草深く、当時を偲ばせる遺構がわずかに残っていました。

次に向かったのは永国寺。隈姫は当寺の南陽軒に葬られたそうです。法名は西津良意といい、今もその供養塔とされる石塔が残っています。

その後、阿蘇神社に参り、次の願成寺では相良氏代々の墓が並ぶ壮大な墓地を見学しました。初代長頼の墓を中心にして、37代頼綱に至る歴代当主やその親族の墓が約 250 基並んでいます。



午後は、隈姫の二番目の嫁ぎ先である上村氏の居城があったあさぎり町にも足を延ばし、上村城(麓城)跡、上村氏代々の墓所、菩提寺東圓寺跡に残る谷水薬師堂、武家の屋敷群などを訪ねました。

最後に、上村氏の氏神神社だった白髪神社にお参りし、一日かけた研修視察を終えました。

黒川岬展望公園開設さる

玉利良一

日木山川(黒川)の左岸河口部を黒川岬と呼びます。その対岸(右岸河口部)にこの夏、黒川岬展望公園が開設されました。錦江湾越しに雄大な桜島が遠望できる景勝の地で、悠久の歴史に浸ってみてはいかがでしょうか。黒川岬に関する歴史のほんの一部を紹介します。



る歴史のほんの一部を紹介します。

天文18年(1549)、三州統一を目指す島津氏と加治木を支配していた肝付氏がこの地で激突。この合戦で鉄砲が使われたことが『貴久公御譜』に記されています。天正3年(1575)、織田信長が鉄砲を使って武田勝頼を打ち破った長篠合戦より20年以上前のことで、記録に残されたものでは最初のこととされています。因みに、周辺には「陣が平」「小陣」などの地名が残されています。

その後、文禄の役で義弘の陣僧を勤めた鳳山和尚は黒川岬に「鳳山軒」と称する庵を建てて隠棲しました。義弘や初代藩主の家久もよく訪れて和歌などを楽しんだそうです。その時家久が詠んだ「浪のをり かくる錦は(波) 磯山の梢にさらす 花の色かな」が起源となって、鹿児島湾奥部を錦江湾と呼ぶようになったことが、加治木島津家6代久徴の『黒川記』に記載されています。岩場には、かつて加治木島津家の別荘があったと言われ、今もその時の石灯笼3基が残されています。

また、近くには加治木八景の一つ「黒川岬の激浪」の石碑も建てられています。公園の一番北側には、近くでの水難者を追悼する水神碑も置かれています。

歴民館「山城講座」はじまる

竹之下洲一

始良市歴史民俗資料館では、8月から来年2月まで、下鶴館長による7回の「山城講座・義弘の山城を往く」が開催されます。

第1回目は山城についての基礎知識と、始良市内の中世山城跡についての学習内容が中心でした。さらに、城跡の遺構や赤色立体地図・史料などにより、城の配置や構造を読み取り、縄張図の作成ができることなども学びました。

南北朝期から戦国期にかけ、各地の武将は防衛上の拠点として盛んに山城を築きました。始良市内には53ヶ所の山城跡が確認されています。特に島津義弘時代には、重富岩剣城や、蒲生城を中心とした松坂城・北村城・菱刈陣などの山城での戦いが知られています。

義弘公没後400年の今年、山城をめぐりその足跡がたどれることを楽しみにしています。

なお、講座の日程は次のとおりです。

- ① 8月24日 山城の基礎知識
- ② 9月21日 帖佐館・帖佐麓
- ③ 10月26日 北村城跡・松坂城跡
- ④ 11月30日 蒲生城跡・尼ガ城跡
- ⑤ 12月21日 岩剣城跡・平松城跡
- ⑥ 1月25日 加治木城跡・加治木島津屋形跡
- ⑦ 2月29日 島津義弘の居城紹介



それぞれの城にまつわる戦の状況や、人々の有様などを想像しながら、往時に思いを馳せ、初心に帰った気持ちで参加していきたいと思っています。

歴史館秋季特別展のお知らせ

「島津義弘-乱世を駆け抜けた英雄-」

歴史民俗資料館長 下鶴 弘

期間 令和元年10月1日(火)～12月1日(日)

今年は、島津義弘公没後400年にあたりますので、始良市歴史民俗資料館では、義弘の事績を顕彰するために特別展を開催します。

展示構成は次の16項目約280点です。

1. 義弘の誕生、2. 義弘の生涯、3. 義弘の初陣、4. 三州統一と義弘、5. 九州制覇と義弘、6. 豊臣秀吉と義弘、7. 太閤検地と義弘、8. 文禄・慶長の役と義弘、9. 朝鮮での虎狩、10. 関ヶ原合戦と義弘、11. 義弘と帖佐、12. 帖佐八幡神社三十六歌仙額、13. 義弘と加治木、14. 義弘の死、15. 義弘の城、16. 義弘と茶の湯

義弘に関する特別展は、平成18年「戦国武将島津義弘」以来13年ぶりとなります。是非ご来館の上、乱世の戦国時代を一族家臣たちとともに駆け抜けた波乱の生涯をたどってください。

主な展示品



義弘の馬印(レプリカ)
(実物は尚古集成館所蔵)



レーザー測量による
岩剣城跡赤色立体地図



虎の頭骨(個人蔵)



加治木屋形欄干橋復元
(擬宝珠実物、欄干はレプリカ)

自己紹介

社会教育課文化財係 池田 亘

今年4月から新規採用職員として文化財係に配属となりました池田です。

大学では考古学を専攻し、大学院へ進学しましたが、縁があり始良市の文化財担当職員として採用されました。同時に、大学院生と市役所職員の両立をすることになりました。

始良市の文化財や市役所の仕事についても覚えなければならないことが多く、思うように業務に対応することができないことがありますが、確実により深い専門知識や市役所職員としての能力を身につけていこうと思っています。

慣れないところが多々ありますが、1日でも早く文化財係の担当として一人前になれるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。



編集後記

「春秋の花も紅葉もとどまらず

人もむなしき閑路なりけり」

島津義弘辞世の句のひとつといわれています。義弘は生涯で52回の合戦に出陣し常に最前線で働いた戦国武将でした。また、義弘は武芸だけでなく和歌や茶の湯も嗜み、愛妻家でもあり、部下や領民にも慕われていました。

今年は義弘公没後400年の催しが、始良市だけでなく県内各所で行われています。どうぞお出かけになってください。必要ならご案内させていただきます。
(編集子)